

（３）医療分野研究開発の成果例②

⑥ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト

膵がん早期診断のバイオマーカーを開発(企業導出)

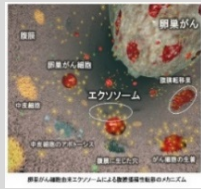
早期膵がんや前がん病変発見のための **早期診断バイオマーカーを開発**、キット化及び企業導出した。既知の腫瘍マーカーと組み合わせ検診として用いることで、膵がんリスク集団をスクリーニング、その後の精密な画像検査等で早期に膵がんの診断を行うことにより、膵がんによる死亡率減少への貢献が期待される。



今後の展望(イメージ)

卵巣がんの腹膜播種性転移のメカニズムを解明(臨床研究中)

卵巣がん細胞が分泌するエクソソームが腹膜中皮細胞を細胞死に誘導する腹膜播種性転移のメカニズムを世界に先駆け解明することにより、バイオマーカーかつ治療標的となることが期待される。

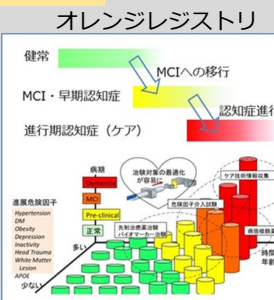


⑦脳とこころの健康大国実現プロジェクト

認知症の人等の全国的な情報登録・追跡システムを構築

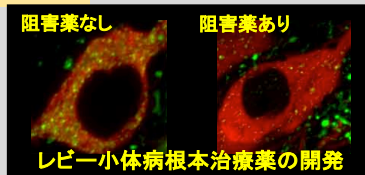
治療法の確立、新しい治療薬の臨床試験・治験を円滑に進め、長期にわたる前向き観察・介入研究を推進するために、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡システムを構築し、新たに稼働した(平成28年5月)。

健康者から前臨床期、軽度認知障害、軽度・中等度・進行期認知症の方まで、様々な人の情報を集め、**認知症の治療法やケア手法**を明らかにするとともに、治療薬開発を目指す。



認知症の治療のための化合物群の同定(特許出願)

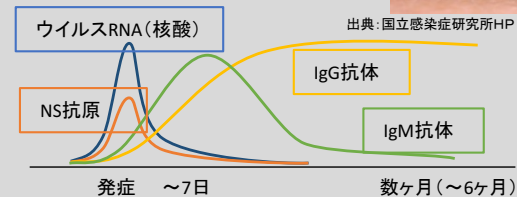
認知症の20%を占めるレビー小体型認知症の発症原因となるタンパク質凝集体(レビー小体)の形成を抑制する疾患修飾薬候補化合物(阻害薬)を創製した。特許出願中(平成29年3月)。



⑧新興・再興感染症制御プロジェクト

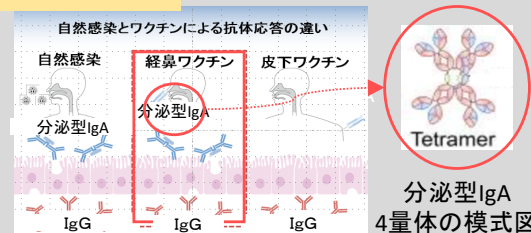
ジカウイルス感染症の迅速診断法を開発(臨床性能試験開始)

平成27年に中南米で流行したジカウイルス感染症について、RT-LAMP法を応用した、発症初期に血中で増加するウイルスRNAを簡便かつ迅速に検出する**診断キット**を開発。平成28年12月よりブラジルでの臨床性能試験を開始。



経鼻インフルエンザワクチンを開発（企業導出）

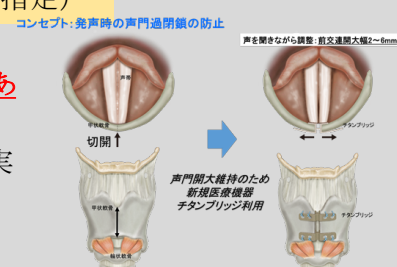
不活化経鼻インフルエンザワクチン投与後のIgA抗体多量体の存在と効果を世界で初めて発見し、効果を裏付ける結果を確認。不活化経鼻インフルエンザワクチンを企業導出し、臨床試験実施中。



⑨難病克服プロジェクト

「チタンブリッジ」を開発（臨床研究中・先駆け審査指定）

声帯を動かす筋肉が痙攣を起こす原因不明の疾患である内転型痙攣性発声障害(内転型SD)を対象に熊本大が開発中のチタンブリッジについて、医師主導治験を実施し、総括報告書の作成に至った。



未診断疾患における原因遺伝子の絞り込み及び確定診断

未診断疾患イニシアチブ (IRUD) について、開始から1年半で 6症例の世界初の疾患を同定するとともに、原因遺伝子を5つ以下に絞り込むことができた”N-of-1 (新規疾患の示唆)”が 83症例と判明 (平成28年末時点)

